

「なぜ、学校図書館が大事だと考え、長年にわたって考える会の活動に携わってきたのか」

なぜ？と問われ、あらためて考えると、「すべての子どもたちの幸せに必ず役に立つと思っただから」となると思います。我が子（孫も）が、平和な世界でそれぞれがその子らしく生き生きと幸せに生きていてほしい。そしてそれは我が子一人のことではなく、すべての子がそうでなければ我が子一人の幸せなどあり得ない。図書館とは「みんなで賢くなってみんなで幸せになろうというところですよ」という言葉を聞いた時には心が高鳴りました。

「石川・学校図書館を考える会」は1994年から活動を始めています。発足のきっかけとなった岡山市のビデオ『本があって人がいて』を見た私たちは大きな衝撃を受けました。そこでは、学校司書に読みたい！知りたい！を支えられ、子どもたちは目を輝かせていました。文庫やおはなしの会を通して、子どもは本が好きということも、子どもの本は手渡す人がいなくては届かないということも実感していた私たちでしたが、ほとんどすべての子どもが毎日通う学校の図書館！その可能性の大きさに興奮すると同時に、我が子の通う学校とのあまりの差に愕然としました。その頃石川県では原発建設が問題になっていましたが、学校図書館のことは、例えばその原発をどうしたらよいかを考える力にもつながることだったのでした。

会を作って学び始め、図書館とはどういうところか（ジャッジしない・多様な資料に出会う・人の自立を助ける）司書とはどういう人か（資料の世界の地図を持っている人）学校司書が入ったらどうなるのか（時間も距離も超えた資料の世界への扉が開く・学校の中に機能する図書館があることで、単に読書だけでなく教育が変わる）などがわかってくるにつれ、これは子どもの育ちにどうしても必要なことだと確信するようになっていきました。

活動を長く続けていくことができた一番の要因は、たくさんの方に教えていただき、たくさんの方の学びをいただいたことだと思います。本当に感謝です。毎月発行され、考える材料を提供しつづけてくださった『ぱっちわーく』。「学校図書館を考える全国連絡会」や富山・静岡・丸亀・近畿などの同じ思いの全国の方たちとのつながり。「理想はグローバルに、運動はローカルに！」「市の方針・現場の頑張り・市民の応援、どれも不可欠」「教育委員会とはフレンドリーに！」「センスとはいろいろな障害の向こうになお実現可能な方策と目標を見つけることができる優れた力のことですよ」「無駄と思える努力が力になります」等々、教えていただいた言葉を唱えながら、たくさんの方の学びを県内の多くの市町でできた“考える会”の仲間とも共有し、励まし合ってこられたこと。そして、少しずつではあるけれども毎年必ず県内で学校司書配置が進んだことも大きかったと思います。自分たちの町のことを自分たちで考え、決めることに少しでも参加できたことは幸せなことでした。

学校図書館で自分を知り、他を知り、たくさんの方の“物語”に出会ってほしい。生涯にわたってその子を支える図書館の力を手にして、自分の頭で考え、想像し、判断し、人とつながって、あきらめずに道を拓いていてほしい。学校図書館への期待は会の始まりと変わらず切実です。これからもそれぞれができる“市民の応援”を続けていきたいと思っています。

下崎睦子 『ぱっちわーく』No.282・11月20日発行 掲載原稿